



日本キリスト教団  
三軒茶屋教会

# 三軒茶屋 教会通り

〒154-0024

東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5  
TEL/FAX: (03)3418-4933

編集/発行: 広報部

第6号 1999年12月発行

## 楽しきかな、 聖書朗読



牧師 陣内厚生

三軒茶屋教会には、他の教会にはまたと無いであろう、新約聖書全文の手書きの書物二巻があります。一九七七年、当時の奥牧師の発案で、新約聖書を皆で手分けして書き写してみようという、一大イベントを実施した時の共同作品です。聖書のページにある上下二段組みの一段分が、手書き原稿用紙一枚にそっくり清書されているというわけです。本文最初の書き出しは牧師が担当、一人数枚ずつを、実に見事な字で清書してあるではありませんか。その当時の信徒の皆さんの信仰が、一つの文字を借りて表わされているの

の、いや永久の（と言える）方向性が、この時に決定的なものとなりました。私たちはその教会を継承しており、聖書という神の言葉の宝庫を戴いているのです。

です。氏名を見ると、現在の信徒の中で、「清書作業」に加わっておられる方々が、相当数おられるのが分かります。この教会にとって、今では貴重な宝物となっています。さて、時はキリスト生誕二千年を迎えるところです。この二千年の最初の百年に、イエス・キリストの生涯、死と復活があり、教会の誕生と証言の執筆、すなわち聖書の本文が書き上げられました。その後二千年

いま二千年の節目に、聖書を通読しようという運動が日本聖書協会によって呼びかけられています。この端緒となったのは、実は一九九四年に私の前任地・宇部緑橋教会において行なった、へ聖書全巻リレー朗読会」という、大げさに言えば世界に類例のないイベントだったのです。それは次のような秘話から生まれたことでした。

私が牧師になって間もない頃、当時、E教会の信徒Tさんが、「聖書をぶっ続けて読むと、四昼夜はかかる」と言われた言葉が忘れられませんでした。その時以来、私には一つの構想が出来上がっていました。四昼夜で読めるとして、教会の全員で次々にバトンタッチをし、文字通り昼夜を分かたず朗読してみたらどうだろう、と。なぜ？ なののために？ などと難しく考えずに、大いに聖書

を楽しむという発想でもいいのでは  
ないか——。ただでさえ教会にはお祭りの要素が少ないので、一度はやってみる価値はありそうだ、と勝手に思いはふくらんで、創立七十周年の行事として提案に至ったのです。内心は恐る恐る——。

教会内の反応は、案の定、驚きから始まって、やがて共感を得るところに達し、やってみようということになりました。早速、実行委員会をつくり、試行錯誤の準備作業を続けました。何しろだれも、どこでもやったことのない試みです。しかし、検討を重ねた上で、一つの実施方法を生み出しました。それは紙面の都合上、別の機会に紹介しますが——。この実施時期は五月の大型連休でした。実施した結果は、想像以上の大成功をもたらしました。朗読に参加した人たちが全員が、心のうちに燃えるものを感じ、連帯のきずなも生まれ、大いに恵まれたのです。さあ、かつて聖書の筆記をした三軒茶屋教会は、今度は「リレー朗読会」に挑戦してみませんか。来年。